

平成26年度第2回近畿中国森林管理局国有林材供給調整検討委員会の開催結果について（概要）

第2回近畿中国森林管理局国有林材供給調整検討委員会を開催し、供給調整の必要性等についてのご意見をいただきました。

1 日時及び場所

平成26年8月7日（木）
近畿中国森林管理局4階第3会議室

2 議題

- (1) 近畿中国局管内の需給動向について
- (2) 国有林材供給調整の必要性について
- (3) その他

3 議事概要

《検討結果》

消費増税による駆け込み需要の反動等により、三月以降、住宅着工戸数も前年割れが続いており、需要も低迷し、原木価格も低位に推移している。益明けからの需要の回復はまだ不透明であり、国有林材の供給調整の必要性は認められないが、引き続き市場動向等を注視していく必要がある。

〈主な情報、意見について〉

○国産材の供給及び価格の動向について

- ・梅雨等により材質の低下が危惧され、例年出材が減少する時期である。
- ・製材、合板等メーカーは在庫を抱えている状況である。
- ・原木需要も回復しない中で、価格が低下しており、梅雨は過ぎても出材は増えていない状況である。
- ・岡山県真庭市に木質資源安定供給協議会が発足するなど、木質バイオマス発電向けの荷動きは旺盛である。

○原木需要分野（川下）の動向及び今後の方向について

- ・製材は、今年に入ってから荷動きが悪く、原木はそこそこ出てきているが、価格は低位に推移している。構造用材は動いていないが、羽柄材の需要はある。
- ・合板は引き合いが減って、メーカーは減産に入っており、原木も十分在庫がある。
- ・今後バイオマス発電所の稼働ラッシュが想定され、積み上げていくと原木が足らなくなる懸念がある。

○その他

- ・製品の運搬について、運転手不足によりトラックが手当てできないケースがみられる。
- ・シンクタンクによる長期的な住宅着工の予測には、先行き着工数が相当減ると報じたものがあり、木材需要の落ち込みが心配される。